

コア・コンピタンスとサステナビリティ重要課題

コア・コンピタンス

王子グループは、603千haに及び王子の森を国内外に保有し、森林資源を育て、使い、また育てることを繰り返しながら、事業領域にとらわれず幅広く事業を展開しています。森林資源をコア・コンピタンスとして、さらなる事業発展と持続可能な社会への貢献を目指します。

持続可能な森林経営

環境保全に配慮しつつ、木材生産を主目的とする生産林は、国内176千ha、海外279千haの合計455千ha、環境保全林は、国内12千ha、海外136千haの合計148千haにものぼります。環境、社会、経済に配慮した持続可能な森林経営の実践が事業に根付いています。

再生可能な資源の活用

紙の原料の約6割を占める古紙のリサイクルを推進。さらに紙の製造に欠かせない水も、製造プロセスにおける循環・再利用を徹底し、水使用量の削減と高度な排水浄化の仕組みを構築しています。

木質由来の新素材開発

多分野から大きな期待が寄せられているセルロースナノファイバー（CNF）、木質由来のバイオマスプラスチック、さらには木質ヘミセルロース由来の医薬品など、新たな価値創出を目指し、新素材開発に注力しています。

製紙基盤技術の応用

水力発電や木質バイオマス発電を中心とした再生可能エネルギー事業の展開、工業用水の製造や産業排水処理事業など、製紙事業で培った基盤技術を活用し、さまざまな環境負荷低減につながる分野で事業の拡大を図っています。

グローバルな拠点・販売

原紙から紙器・段ボール製造までを一貫で行うパッケージング事業をはじめ、家庭紙事業、感熱紙事業、パルプ事業など、積極的にグローバル展開しています。成長を続ける海外の市場ニーズに対応し、事業を拡充しています。

サステナビリティ重要課題

王子グループは、刻々と変化する社会動向に的確に対応し、お客様や社会からのニーズにお応えしながら、中長期的な企業価値の向上に向けた取り組みを続けています。その根幹を成すサステナブル・ビジネスモデルの発展に向けて、2019年に以下のプロセスでサステナビリティ重要課題を特定しました。

また、非財務情報に関する社会からの要請の変化や、パーパス、長期ビジョン、中期経営計画の策定等の社内状況の変化を踏まえ、2023年にサステナビリティ重要課題の見直しを行い、定義および構成要素を新たに特定し、人的資本の強化に対応するKPIを見直しました。

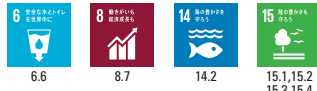
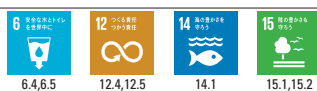
サステナビリティ重要課題の特定プロセス

Step 1 コア・コンピタンスの特定	森林資源を核とした事業展開を支える、5つのコア・コンピタンスを特定しました。
Step 2 候補の抽出	SDGs、グローバルリスク、ESG評価機関からの評価内容、当社グループが認識している重要項目、目指す姿、ステークホルダーとの対話などから、網羅的に課題を抽出しました。
Step 3 評価・分析	各課題について、社会にとっての重要度、事業にとっての重要度の両軸で評価を行いました。外部機関からの意見も取り入れ、課題の絞り込みを実施し、整理しました。
Step 4 妥当性の評価・承認	特定したサステナビリティ重要課題について、経営会議にて妥当性の確認を行い、承認を取得しました。サステナビリティ重要課題は、社会の環境変化や新規課題の出現などを考慮する必要があるため、毎年、サステナビリティ推進委員会にて見直しの必要を議論していきます。

サステナビリティ重要課題と定義

分類	サステナビリティ重要課題	定義
E 環境	 気候変動の緩和・適応	サプライチェーンでのGHG排出削減、森林によるCO2吸収・固定の推進を図り、気候変動の緩和に貢献する。
	 持続可能な森林経営と生物多様性の保全	保有・管理する森林において、環境および地域社会に配慮した持続可能な森林経営を実践し、森林資源を活用するとともに、生物多様性保全をはじめとした森林の多面的機能を発揮する。
	 資源の循環的利用	資源枯渇を防ぐため、紙および水を貴重な再利用可能な資源と捉え、循環的な利用を図る。
	 環境負荷の低減	製造過程において、周辺地域への環境負荷を最小限にするために、廃棄物の削減、排水、排気の浄化を推進する。
S 社会	 人権の尊重	あらゆる事業活動における人権侵害を許容しない。
	 人的資本の強化	持続的成長に必要な多様な人財(人的資本)を確保・育成する。全ての人財が能力を最大限に発揮でき、働きやすい環境を整備する。
	 職場の安全衛生の確保	全ての従業員および関係者の安全衛生を確保する。
G ガバナンス	 責任ある原材料調達	あらゆる原材料を調達するためのサプライチェーンにおいて、環境および人権を含む社会に関する課題を看過せず、責任をもって対処する。
	 安全安心な製品の供給	世界中に安全安心な製品を供給する。

サステナビリティ重要課題とKPI

分類	サステナビリティ重要課題	構成要素	KPI(重要業績評価指標) (特に記載のある場合を除き、2030年度)	現状数値 ^{※1}			主な取組	社会に提供する価値	対応するSDGs	詳細
E 環境	 気候変動の緩和・適応	- GHG排出量の削減 (Scope1,Scope2) - 森林によるCO₂吸収・固定 - サプライヤー等との協働によるGHG排出量削減 (Scope3など) - 再生エネルギーの利用拡大 - エネルギーの効率的な利用	●GHG排出量2018年度対比70%以上の削減 (Scope1,Scope2) ・GHG排出量削減:20% ・森林によるCO ₂ 純吸収量:50%	●16.5%削減 ・4.7% ・11.8%			- 生産効率向上、省エネルギー、再生可能燃料・廃棄物燃料の活用によるGHG排出量削減 - 持続可能な森林経営によるCO₂の吸収・固定 - 化石燃料代替としての非化石燃料・バイオマス燃料の利用拡大 - バイオマス発電事業の展開 - 環境配慮型製品の開発	- 気候変動の緩和 - 再生可能エネルギーの割合増加 - エネルギー効率の向上 - 環境に配慮した技術の向上	 7,2,7.3 7.a9.4,9.512.213.1,13.213.3	P25~30
			●CO ₂ 固定量 ^{※2} の拡大 1億7,000万トン以上 (計算値)	●1億2,245万トン						
			●石炭使用量の低減等により、再生可能エネルギー利用率60%以上の実現	●54.7%						
			●5年平均エネルギー消費原単位 年1%以上の改善	●3.8%削減 (2018~2022年度)						
S 社会	 持続可能な森林経営と生物多様性の保全	- 森林の適切な管理と保全 - 森林資源の活用 - 生物多様性と生態系の保全・推進 - 地域コミュニティとの関係構築	●海外の森林認証取得率 ^{※3} 向上 (国内は100%維持)	●国内:100%、海外:94%			「持続可能な森林管理方針」に基づいた森林経営 - 森林の多面的機能の維持・拡大 - 植林の推進や社有林保全等の持続可能な森林経営	- 生物多様性と生態系の保全 - 雇用の創出 - 就労・教育・医療支援	 6.68.714.215.1,15.215.3,15.415.5,15.c	P31~34
			●海外植林地400千haへ拡大	●279千ha (環境保全林136千ha)						
			●古紙利用率 ^{※4} (国内):70%以上	●68.0%						
			●取水原単位 2018年度対比6%以上の削減	●12.9%削減						
G ガバナンス	 資源の循環的利用	- 古紙利用の促進 - 水リスクの低減 (水のリサイクルの促進他)	●古紙利用率 ^{※4} (国内):70%以上	●68.0%			- 紙のリサイクル (古紙利用率の向上) - 取水量削減と水のリサイクル - 水処理事業の海外への展開	- 気候変動の緩和 - 廃棄物削減 - 水不足への貢献 - 安全な水の供給	 6.4,6.512.4,12.512.614.115.1,15.215.3,15.415.5,15.c	P89~92
			●廃棄物有効利用率 ^{※5} の向上 国内:99%以上、海外:95%以上	●国内:99.4%、海外:83.4%						
			●排水中負荷物質排出原単位 2018年度対比15%の削減	●BOD:35.1%削減、COD: 10.0%削減、SS:24.0%削減						
			●排気中SOx排出原単位 2018年度対比15%の削減	●15.4%削減						
S 社会	 人権の尊重	- 全ての事業活動における人権配慮 - 職場における人権配慮	●対象者への人権教育・研修の実施 100%	●95.6% (2023年1月~7月実施、 総受講者数2,566名)			「王子グループ企業行動憲章・行動規範」、 「王子グループ人権方針」の制定と運用 - 内部監査の実施、内部通報制度の運用 - 社内研修等によるコンプライアンスおよび人権に 対する意識の醸成 - サプライヤーの人権尊重等のリスク評価 - 人権デュー・ディリジェンスの実施	●人権尊重	 5.1,5.45.5,5.c8.5,8.78.810.2,10.310.4	P93~94
			●総労働時間 1,850時間以内 (国内本社地区26社)	●1,830時間						
			●男性の育児休業等取得率 100% (国内16社 ^{※6})	●98.8%						
			●女性管理職比率 5.5%以上 (国内16社 ^{※6} 、2025年3月末)	●3.6%						
S 社会	 人的資本の強化	- ワークライフマネジメントの向上 - 従業員のスキル向上 - インクルージョン&ダイバーシティ - コンプライアンス意識の強化	●新卒採用女性総合職比率 ^{※7} 30%以上	●37.7% (2023年4月1日入社)			- 人財戦略／人財育成 - 働き方改革の推進 - ダイバーシティ推進	- 多様な人財の活躍 - イノベーションの実現 - 生産性の向上	 5.1,5.45.5,5.c8.2,8.58.810.2,10.3	P95~98
			●障がい者雇用率 2.3%以上 (国内81社 ^{※6} 、2023年6月)	●国内グループ適用6社 ^{※6} :2.51%、 国内81社 ^{※6} :2.20% (2023年6月)						
			●コンプライアンス会議参加率 100% (王子ホールディングスおよび国内全子会社)	●97.2% (2022年度下期)						
			●安全衛生管理体制の確立と安全衛生活動の推進 ●機械・設備、作業等における安全確保の徹底 ●安全教育の推進 (VRによる危険体感教育の展開等) ●従業員の心身の健康促進 ●快適な職場環境の整備 ●新型コロナウイルス等感染症への対応	●3件 (2022年1月1日~12月31日)						
G ガバナンス	 職場の安全衛生の確保	- 従業員の健康促進 - 労働災害の防止	●労働災害度数率 ^{※6} 2018年 (0.89) 対比50%削減	●1.11 (2022年1月1日~12月31日)						
			●死亡・重篤災害 ^{※8} ゼロ (毎年度)	●3件 (2022年1月1日~12月31日)						
			●主要サプライヤー ^{※9} の サステナビリティ調査実施100%	●100% (20年度~22年度に実施、 以降フォローアップ調査)						
			●「木材原料の調達指針」に基づく トレーサビリティの実施100%	●100%						
G ガバナンス	 責任ある原材料調達	- サプライチェーン上の環境配慮 - サプライチェーン上の人権配慮 - 法令・社会規範の遵守と公正な取引	●主要サプライヤー ^{※9} の サステナビリティ調査実施100%	●100% (20年度~22年度に実施、 以降フォローアップ調査)			「王子グループ・パートナーシップ調達方針」 および「木材原料の調達指針」による、環境や社会 に配慮したCSR調達推進	- 責任ある生産消費形態 - サプライチェーン全体の労働者の 権利保護、環境負荷の低減	 8.712.1,12.412.615.1,15.2	P101~102
			●「木材原料の調達指針」に基づく トレーサビリティの実施100%	●100%						
			●製造物責任事故0件 (毎年度)	●0件						
			●製品品質の確保	●0件						
G ガバナンス	 安全安心な製品の供給	- 製品の安定供給 - 製品品質の確保	●製品品質の確保	●0件			- 自社製品の安定供給 - 関連法規遵守およびそれを上回る自主管理値に 従った安全な品質設計・管理 - お客様への原材料 (薬品、資材) の安全性情報の提供 - FSC[®]認証製品 (FSC[®]C014119他) の供給	- 安全安心な製品提供 - 環境負荷の低減 - 開発途上国への環境に配慮した 技術普及	 9.4,9.b12.4,12.617.7	P102
			●製品の安定供給	●0件						
			●製造物責任事故0件 (毎年度)	●0件						
			●製品品質の確保	●0件						

※1 集計期間: 記載のある場合を除き、2022年4月~2023年3月、または2023年3月31日時点。対象範囲: 記載のある場合を除き、国内外の連結子会社
※2 CO₂ 固定量 (CO₂トン) 生産林: 各年度末残存蓄積量×バイオマス拡大係数×容積重×(1+地下/地上比)×炭素率×CO₂換算係数
環境保全林: 各年度末残存面積×自然林の地上バイオマス×(1+地下/地上比)×炭素率×CO₂換算係数
※3 森林認証取得率: [海外] 自社所有生産林における面積比率、[国内] 分収林を除く社有林における面積比率
※4 古紙利用率=古紙消費量÷全繊維原料消費量 (古紙、木材パルプ、その他繊維原料の消費量合計)

※5 廃棄物有効利用率= (廃棄物発生量ー埋立て量) ÷ 廃棄物発生量×100
※6 算出方法P111参照
※7 新卒採用女性総合職比率: 王子マネジメントオフィス株式会社一括採用 (スポーツ採用者を除く)
※8 重篤災害: 王子グループでは、労働者災害補償保険法施行規則 別表第一障がい等級表の第三級以上の災害を重篤災害としています。
※9 取引額上位75%のサプライヤー